# 令和８年度第１回柏市健康福祉審議会健康増進専門分科会会議録

1 開催日時
令和８年９月３日（木）午後２時から４時

2 開催方法
対面とウェブ形式との併用による開催

3 開催場所
ウェルネス柏 4 階　研修室

4 出席者　※ウェブ形式による参加
委員
中込敦士会長，阿部孝委員，沖正弘委員，加藤理津子副会長※，
小島幸江委員，佐藤健一郎委員，寺田英史委員※，
平野江利香委員，藤田哲也委員，松本文委員

事務局
健康医療部長（小倉孝之），健康増進課長（齊藤清一），
健康増進課職員

部内関係者
健康政策課（宗得貴之），高齢者支援課長（島澤智宏），
地域包括支援課長（小出嘉則），総務企画課長（浅野美穂子），
総務企画課主査（寺平あずさ），保健予防課長（荒巻麻衣子）

他部関係者
スポーツ課主事（田村直己），福祉政策課長（宮脇護），
母子保健課長（星裕子），農政課長（松下尚樹），
学校教育課長（木村利美），保険年金課長（柳川行秀）

5 議事内容

（１）報告

第２次柏市健康増進計画の進捗状況及び評価と課題

（２）議題

働く世代への健康づくりに関するアプローチについて

6 資料

（１）次第

（２）委員名簿（資料１）

（３）関係課名簿（資料２）

（４）会議資料（資料３）

（５）令和７年度取り組み事業（参考資料１）

（６）庁内及び関係機関別取り組み事業（参考資料２）

（７）柏市で働く人の健康ガイド案（参考資料３）

7 議事（要旨）

（１）第２次柏市健康増進計画の進捗状況及び評価と課題（報告）

【事務局】

資料３の説明

（２）働く世代への健康づくりに関するアプローチについて

【事務局】

資料３の説明

【中込会長】

第２次柏市健康増進計画では，ライフコースアプローチや自然に健康になれる環境づくりを重要視している。令和８年度は，健康づくりについて様々な部署が関わり，横断的に取り組むことを意識している。今後，柏市民の健康意識の向上を図るため，市や各団体の取組の中で連携して実施できる事業やサービス等について意見をいただきたい。また，参考資料３「柏市で働く人の健康ガイド（案）」について，内容や配布方法，活用方法等についても意見をいただきたい。

【平野委員】

資料３－１６の「野菜料理を５皿（３５０g）以上食べている人

の割合」について，分かりにくいと感じる。どのような調査方法によるものか。また，睡眠についても同様に確認したい。

【事務局】

野菜摂取については，「1日に小鉢5皿」という表現で質問している。睡眠については，主観での大まかな状況を把握する質問であった。

【加藤副会長】

厚生労働省でも野菜摂取について「1日5皿以上」という表現を用いているが，一般の方には分かりにくいと思うため，補足説明があるとよいのではないか。

【阿部委員】

野菜摂取率の調査結果について，摂取率が非常に低いことから，統計上どの程度意味のある数値なのかと感じる。

【加藤副会長】

国民健康・栄養調査の結果を代替的に活用することはどうか。

【事務局】

国民健康・栄養調査については市でも把握している。一方，柏市民の状況を把握するため，柏市独自の調査は継続したいと考えている。

【中込会長】

国民健康・栄養調査については，参考所見として活用することもよいのではないか。

【沖委員】

連携協定事業所が少ないことに対し，経済産業省の「健康経営優良法人認定制度」に登録している柏市内の企業に働きかけてはどうか。また，柏労働基準協会では企業を対象とした講習会を実施しているため，チラシ等の配布も可能ではないか。参考資料3については情報量が多いため，A3またはA4の表裏程度にするとより読みやすいのではないか。

【事務局】

柏市内には，健康経営優良法人の認定を受けた事業所が30事業所程度ある。今後，アプローチ方法については検討する。

参考資料3については，内容の短縮化を検討する。

【沖委員】
単純に短縮するのではなく，各項目をそれぞれチラシにする方法もあるのではないか。
【事務局】
現在，様々なテーマの健康情報を月１回メールで事業所に配信している。事業所への講習会等においても，配信内容と同程度の分量の健康情報を提供するなど，情報量を抑えて啓発する方法についても検討したい。
【小島委員】
東葛北部地域産業保健センターでは，従業員５０人未満の企業を対象に無料の健康相談を行っている。新型コロナウイルス感染症の流行期以降，企業とは郵送でのやり取りが中心となっている。健康情報のチラシであれば郵送できるが，参考資料３は分量が多く，郵送には適さないと思う。
【事務局】
参考資料３には，個人向けの内容と，職場で健康管理を担当する方向けの内容など，対象者が異なる情報が含まれている。今後，内容の整理・改善について検討する。
【佐藤委員】
中小企業にとって，働き盛り世代の健康は経営に直接影響する。企業でも健康に関する情報提供を行っているが，人手不足等により，健康づくりまで手が回らないという実情も経営者から聞いている。経営者と直接会う機会をつくり，チラシ等を配布することで，健康づくりについて周知・啓発できるのではないか。
【阿部委員】
定年を迎えた６５歳以上の方への健康づくりについて，アプローチに課題を感じている。その中で，柏市民健康づくり推進員が地域で活動していることは大変ありがたい。
【松本委員】
柏市民健康づくり推進員は，野菜摂取度測定器や骨健康度測定器を活用し，健康づくりの啓発を行っている。３歳児健康診査や「赤ちゃんのつどい」に来る保護者の中には，忙しさ等から測定結果が良好でない方もいる。

目標野菜摂取量については，１日３５０ｇを目安として，野菜モデルを用いて１日の摂取量を可視化するなど，分かりやすい啓発を行っている。このほか，商業施設や文化祭等においても健康啓発を行っている。
今後も活動を広げたいが，活動する推進員が減少していることが課題である。

【藤田委員】
働く世代へのアプローチに課題がある。接点を持つことが難しいため，ショッピングモール等での啓発を行っている。カフェなど人が集まる場所にこちらから出向き，接点をつくることで，健康についての周知や意識づけにつながる取組ができればよい。
連携できるところがあれば，一緒に取り組みたい。

【沖委員】
呼びかけても来ない人は来ないため，スーパーや図書館，スポーツジムなど，多くの人が訪れる場所にこちらから出向くことが重要ではないか。

【中込会長】
特にスーパーは，多くの人が一定の頻度で利用する場所であり，スペースを設けて会話や健康チェックを行っているところもある。図書館も年齢を問わず様々な人が訪れる場所である。
また，高齢者の中には，運転免許の返納等により交通手段がなくなる方もいる。自治体によっては，電動カートやグリーンスローモビリティを活用した「動く通いの場」の取組も始まっている。こうした取組は単なる移動手段ではなく，人と会う機会の増加や精神的なウェルビーイングの改善，笑う機会の増加につながるとの研究結果もある。
「人を集める」のではなく，「人が集まっている場所に出向く」という視点が重要である。

【阿部委員】
不登校児や朝食を食べない子どもが増えている。こうした子どもたちにどのようなケアができるのか，制度や仕組みの面から考えていく必要があるのではないか。

【中込会長】
健康増進は様々な課にまたがり取り組む必要がある。公衆衛生の分野では，教育は効率のよい投資であるといわれている。就学前から小学校，中学校の時期における子どもへの教育は，その後の人生にも大きく影響する。ポジティブな経験もネガティブな経験も，その後のライフコースに大きな影響を与える。
【学校教育課】
学校現場では，保護者が朝早く出勤する都合等により，朝食をとらずに登校している子どもがいる状況を把握している。いただいた意見を踏まえ，今後について検討する。
【加藤副会長】
社員食堂では栄養教育を行っているため，健康に関するチラシ等を配布することは可能ではないか。
学校給食では給食だよりをご家庭に配布しているため，親子で一緒に取り組める内容のチラシを配布することもよいのではないか。
また，子ども食堂だけでなく，世代を問わず利用できる食堂も広がりつつあるため，民間企業の活用もできるのではないか。
経営者に対して，従業員の健康管理が会社の利益につながることを理解してもらい，健康づくりの取組を推進してもらうアプローチも必要である。
健康アプリ「ワニ Fit」については，イベント等の機会にダウンロードや使い方の説明を行うことで，利用促進につながるのではないか。
【中込会長】
冷凍の栄養管理食が普及しているが，こうしたサービスを企業で勧めることにより健康経営上のメリットはあるのか。
【加藤副会長】
管理栄養士が食事を監修しており，糖尿病患者向けや腎臓に配慮した食事等もあるため，啓発媒体を添えて提供することは可能である。
また，企業で電話相談窓口を開設し，利用者が管理栄養士に相談できる仕組みもある。

「貸しビル」のように，同じビルに入居する中小企業の従業員が共同で利用できる社員食堂もある。

【寺田委員】

「健康かむかむフェスタ」を毎年，市と柏市民健康づくり推進員が一緒に開催しており，今年度も実施を予定している。また，訪問可能な歯科医院を増やすための取組も進めている。

歯周病検診の受診率は１０％と低いため，受診率向上に向けた周知・啓発を行いたい。４０歳以上は歯周病のリスクが高まるため，毎年受診できる機会を設けることで受診率の向上につながり，糖尿病や骨粗しょう症等の予防にもつながると考える。

【平野委員】

資料３－１７，特定健康診査の受診率は低い一方で，「過去１年間に健診を受診した人の割合」は高い。職域で受診した健診の実態を把握できていないことは，国を挙げた課題となっている。

柏市では，胃がん検診について内視鏡検診の受診率が県内でも顕著に高い。その背景には，鎮静剤の使用や，抗血栓薬内服中でも検査を行う体制を以前から整えていること，病院の医師が検診に前向きであり，実施医療機関が多いこと等がある。

肺がん検診についても，柏市ではいち早く重喫煙者を対象とした低線量 CT 肺がん検診を開始している。このように様々な取組を進めているものの，数値としての成果には十分につながっていない。

人材不足や物価高騰等の影響がある中で，多職種が連携し，それぞれの分野が抱える課題について市が主体となって取り組みを進め，より住みやすく健康な地域になると良いと思う。

【中込会長】

多職種が連携し，適切な医療受診につなげることや，社会的なつながりや居場所につなげることなどの取組を進めることで，第２次柏市健康増進計画を推進していけると感じた。本日いただいた意見を今後の取組に反映するとともに，働く世代への健康づくりについても，引き続き推進していきたい。

8 傍 聴

1 人